

## 第12回

# 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、  
「子育て支援活動の表彰」と  
「女性研究者への支援」の  
2つの公募事業を柱として、すこやかな子育てと  
夢のある未来づくりを応援しています。



## 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。  
各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、  
他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を  
払拭することを目的としています。

## 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、  
育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や  
生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。  
人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



目次	「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介	2
	ごあいさつ	3
	講評	4
	子育て支援活動の表彰	6
	女性研究者への支援	15

# ごあいさつ

## 橋本 雅博

住友生命保険相互会社  
取締役 代表執行役社長



住友生命では、保険事業の健全な運営とその発展を通じて、豊かで明るい長寿社会の実現に貢献したいとの思いから、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。特に、「子育て支援」の分野では、子どもたちの健やかな育ちと社会全体での子育てを応援するため、出産前から学童期にわたる切れ目のない支援を行っています。そのひとつである「未来を強くする子育てプロジェクト」は、住友生命の創業100周年記念事業として2007年より開始し、今回で12回目を迎えました。

子育て支援に取り組まれている皆さまは、時代とともに変化する各地域や家庭における課題に対し、より良い子育て環境づく

りを目指して懸命に取り組まれておられます。

また、女性研究者の皆さまは、子育てを行いながら、多様なテーマの研究に対して熱意を持って日々取り組まれておられます。

これまでの受賞団体・受賞者の皆さまが取り組まれている事例がロールモデルとなり、社会全体で子どもを見守り育てていく環境を築いていけるよう、そして未来を託す子どもたちがのびのびと育てていく環境づくりに向けた支援の輪が広がっていくことを願っています。

住友生命は、これからも健康で心豊かな社会づくりに向けて、さまざまな活動に取り組んでまいります。

## — 選考結果 —

第12回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2018年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。

「子育て支援活動の表彰」には220組、「女性研究者への支援」には142名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

### 子育て支援活動の表彰



- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞／2組
- スミセイ未来賞／10組

### 女性研究者への支援



- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

# 講 評

## 「未来を強くする子育てプロジェクト」選考委員



[選考委員長]

汐見 稔幸

東京大学名誉教授  
日本保育学会会長

子育て支援活動の表彰においては、時代の変化とともに新たなテーマが生まれ、そのテーマに気づいた人たちが確実に行動を起こし、解決に向けた取組みを行っている様子がうかがえました。そうした市民の力に裏打ちされた活動は公的な支援の仕組みを今後整備するうえで参考になるものであり、このプロジェクトを通じて応援していくことの意義をあらためて感じた次第です。

女性研究者については、わが国においては圧倒的に数が少なく、女性的視点の欠如が社会を行き詰まらせてしまうのではないかと懸念を抱いています。今年女性研究者への支援では、育児と研究の両立という側面に加えて、研究そのものの重要性や研究計画の実現性などを総合的に検討したうえで、女性ならではの視点を生かして研究に励んでいる方々を高く評価させていただきました。



[選考委員]

大日向 雅美

恵泉女学園大学学長

女性研究者への支援は今回で12回目となりますが、本プロジェクトの認知度の高まりを感じるとともに、選考も新たなステージを迎えたことを実感いたしました。このプロジェクトはひとつには、女性研究者が置かれている環境の厳しさを広く社会に知ってもらうことをめざしたものです。女性が育児と研究の両立をめざす困難さは依然として大きなものがありますが、その一方で計画性をもって地道に研究にチャレンジされている方や、現在の社会情勢を踏まえ近未来を見据えた着実なテーマ設定をされている方が増えています。眼前の厳しい壁にひるむことなく、研究者として、母として、自身の信じる道をしなやかに強靱に歩もうとする女性の生き方に焦点を置いた選考ができたことは、本プロジェクトの長年の成果として大変うれしく思いました。



[選考委員]

## 奥山 千鶴子

特定非営利活動法人  
びーのびーの理事長

子育て支援分野において先駆的な団体の息の長い活動を頼もしく感じるとともに、これまで着目されにくかった対象や方向性を模索しながら取り組んでいるフレッシュな団体からも数多く応募いただいたことをうれしく思います。自治体による支援が十分に行き届かないならばと、民間の力を合わせて活動されている団体や、センシティブなテーマに果敢に取り組んでおられる団体など、意欲と使命感にあふれる多彩な活動が印象に残りました。今年の未来大賞とともに、活動を開始して間もない団体が受賞する結果となりました。新たな課題意識を持ち、解決に向けてたゆまない努力とアプローチを行っている団体を表彰できたことは、この子育て支援活動プロジェクトが一段上のステージへと進みつつあることを象徴しているように思います。



[選考委員]

## 米田 佐知子

子どもの未来サポートオフィス  
代表

子どもの貧困に注目が集まるようになって一定の時間が経ち、経済的困窮にある子どもたちへの支援活動が次々と生まれるなか、「体験の貧困」にも着目した子どもたちの文化資本を育てる活動も大切なものだと感じられました。こうした活動は貧困の連鎖を断ち切ることに寄与するものと期待しています。また今年の選考を振り返ると、活動歴こそ短いものの当事者同士が集まり活動を開始した団体からの応募が多く、地域ベースで取組みが多様化している様子がうかがえました。そのなかには障がい児や18歳を越えた子どもたちの支援に注力した取組みなども見られ、子育て支援活動の視点の広がりも感じることができました。今回の表彰を通じて多様な活動が世に知られ、理解や共感の輪がさらに広がることを願っています。



[選考委員]

## 古河 久人

住友生命保険相互会社  
執行役常務

子育て支援活動の表彰部門では、国の施策を理解し行政としっかり連携をしながら活動を行っている団体もあれば、民間同士で連携を取り合い視野を広げて活動を行っている団体もあり、社会的課題に対してさまざまな解決法があることを改めて気づかされました。また、女性研究者の支援部門では、昨年を上回る応募をいただき本プロジェクトにかかる期待の高さを感じております。子育てに奮闘する一方で研究を続けるため、多種多様な工夫をこらして将来のビジョンを描いている皆さまの熱意に心打たれました。

本プロジェクトでの支援が、団体や女性研究者の皆さまの一層のご活躍につながることを願っております。



## 受賞団体のご紹介

P.8

スマセイ未来大賞・文部科学大臣賞  
一般社団法人 チャレキッズ



P.9

スマセイ未来大賞・厚生労働大臣賞  
特定非営利活動法人 とりで



P.10

スマセイ未来賞  
特定非営利活動法人  
隠岐しぜんむら



P.10

スマセイ未来賞  
さつき助産院。



P.11

スマセイ未来賞  
特定非営利活動法人  
C・キッズ・ネットワーク



P.11

スマセイ未来賞  
自然体験活動指導者ネットワーク  
えんりっと



P.12

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人  
食育体験教室・コラボ



P.12

スマセイ未来賞

NPO法人 翼学園



P.13

スマセイ未来賞

長崎“障がい児・者の性を考える”  
教育研究会



P.13

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人  
ホームスタート・ジャパン



P.14

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 ホッピング



P.14

スマセイ未来賞

一般社団法人 美馬森Japan





# スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞

## 一般社団法人 チャレキッズ

福岡県福岡市 代表者：中嶋 一顯

活動開始年月：2015年4月

スタッフ数：10名

〒814-0011 福岡県福岡市早良区高取2丁目3-23-904

TEL.090-3415-3315



**障がいのある子どもたちと受け入れ企業の相互理解を促す  
キャリア教育プロジェクトを推進しています。**

### ○ 障がい児の将来の夢を叶える活動

障がいのある子どもの場合、障がいの程度によって就労場所を割り当てられるなど、本人の意思が反映されないまま将来が決められてしまうケースも少なくありません。しかし適切なサポートさえ受けられれば、きちんと働くことができる子どもたちも大勢います。そうした子どもたちに自ら希望する職業に就くという夢を与え、将来の可能性を広げてあげることがをめざし、私たちは活動しています。

### ○ 得意なことを伸ばします

多くの企業の協力を得て、さまざまな職種の仕事体験イベントや就労に役立つスキルを学ぶワークショップなどを開催しています。多彩な選択肢とリアルな経験を通じてこそ、子どもたちは自身の特性や「好き」と向き合い、将来の可能性を広げることができると考えているからです。同時に私たちの活動においては、できないことを指導・訓練するのではなく、できることや得意なことを伸ばすことを大切にします。

### ○ 障がい児と社会をつなぐ架け橋に

企業や社会の側が障がい児とともに歩む術を学ぶことで、人に優しく、より良い子育てができる社会が生まれると私たちは考えています。企業や社会に対して働きかけることで理解と協力を深めながら、障がい児がいきいきと働くことのできる環境を地域のなかで整えていく。そうした私たちの取組みが社会に根づく障がい者観を変える一助となることを願い、今後も精力的に活動を続けていきます。

### 受賞の 言葉

このたびはこのような賞をいただき、大変うれしく、また身の引き締まる思いです。障がいがあっても夢を語る事ができる社会は、多くの人にとって豊かに生きていける社会だと信じています。受賞を励みに更に活動に邁進し、子どもたちの笑顔を広げてまいります。

# スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞

## 特定非営利活動法人 とりで

山口県岩国市 代表者:金本 秀韓

活動開始年月:2016年4月

スタッフ数:職員12名 ボランティア32名

〒740-0034 山口県岩国市南岩国町5-19-12

TEL.0827-35-6509



## 自立援助ホームの運営を核に 地域ぐるみで子どもたちを支える活動を行っています。

### ○ 地域で子どもたちの育ちを見守ります

代表が社会福祉法人に勤務していた際、保護者や子どもたち自身から数多くの相談を受けるなかで、子育てを取り巻く状況の厳しさを目の当たりにするとともに、過酷な環境に身を置く子どもたちを守り支える団体の必要性を強く実感しました。そこで「誰でも子どもを育てやすく、どんな子どもも育ちやすい地域をつくらう」という決意のもとに、「とりで」を立ち上げ活動をスタートさせました。

### ○ 誰でも利用できる子ども食堂・学習支援

具体的な活動内容として、15～20歳までの子どもたちの社会復帰を手助けする自立援助ホームを2ヶ所で開催しています。また、子どもの居場所づくりとして、土曜日の昼には「とりで子ども食堂」を、平日の夜には「とりで塾」を予約不要・参加費無料で開催しています。最初こそ周知に苦労しましたが、口コミを通じて参加の輪が徐々に広がり、現在は多くの子どもたちが利用しています。

### ○ 継続性のある子育て支援の「仕組み」づくり

活動を展開していくうえで重視したのは、自立援助ホームを核にして子ども食堂や学習支援などを並行して行い、地域のなかで子どもたちを見守る「仕組み」をつくることです。自立援助ホームの運営は常勤有給職員の確保を生み、地域支援活動を行ううえで課題となる人材不足の解消にもつながります。私たちが実践しているこの「仕組み」が広く知られ、他地域での支援の参考になればうれしく思います。

### 受賞の 言葉

実績3年目でこのような賞をいただき光栄です。私たちは「地域で子育てを支える」をテーマに活動に取り組んできました。子育ては親子の間で完結されるだけでなく、その他に地域ぐるみで子育てを支える取組みはできないかと試行錯誤してきました。今後も地域で子育てを支える仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。



# スミセイ未来賞

## 特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

島根県隠岐郡 代表者：深谷 治

活動開始年月：2006年10月 スタッフ数：9名  
〒684-0403 島根県隠岐郡海士町海士5328-6  
TEL.08514-2-1313



都市部からの移住者が多い自然豊かな離島で、島の環境をフル活用した体験プログラムを実施しています。

当団体が運営している「森のようちえん お山の教室」は、雨や雪の日も野外で過ごす自然のなかでの保育を展開しています。幼児にとって、山・海・田んぼなど島ならではの多彩な自然は遊び場であり、貴重な学びの場と考えています。また、自然教育だけに止まらず、島内にある14集落を訪れ、地域の高齢者などと交流し、失われつつある地域の知恵や技術を継承しながら、子どもたちの郷土愛を育むこともまた、私たちの活動の目的です。

### 受賞の言葉

コツコツ積み上げた活動が認められてとてもうれしいです。「子どもたちをもっと自然で遊ばせたい」というママたちの思いから始まったこの活動は、島内のさまざまな人からの支援を受け、スタッフにも恵まれてなんとか運営をしています。島の子みんなに自然体験できる機会をつくっていきたいと思います。

## さつき助産院。

滋賀県大津市 代表者：西村 さつき

活動開始年月：2015年11月 スタッフ数：助産師 4名  
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東2-9-2  
TEL.077-576-7321 Mail.25hugme@gmail.com



「子どもは社会の宝。だから子育てはみんなでする」を合言葉に、母親のケアに配慮した子育て支援に取り組んでいます。

支援の手が届きにくい母親の不安や不調に対し、妊娠中から産後直後までを助産師が寄り添い支える活動を行っています。寄り添うことで、社会に一步踏み出す勇気ができた母親のために交流の場「イロトリドリ」や、専門家による各種講座などを運営しています。「今度は自分たちが新たな母親のサポートをしたい」と母親が母親を支える活動が始まり、活動開始から間もないながらも確かな手応えと広がりを感じています。

### 受賞の言葉

私たちが受賞できたということは、母親が望む支援はまだまだ足りていないのだと感じています。私たちの活動は日本では当たり前。日本の母親は、笑顔で子育てができてるのが当たり前。そんな日本を目指して滋賀から発信してまいります。これからもママの笑顔を産みだす助産院としてスタッフ一同頑張ります！

## 特定非営利活動法人 C・キッズ・ネットワーク

兵庫県西宮市 代表者：大森 節子

活動開始年月：1997年5月 スタッフ数：43名  
〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園2-5-17-102  
TEL/FAX.0798-31-2189



「食」「お金」「環境」などをテーマに、  
受講する子どもたちの年齢に合わせた消費者教育を行っています。

消費や契約を巡るトラブルが増え消費者教育の重要性が高まるなか、私たちはオリジナルの消費者教育プログラムを開発し、学校や児童館などで出前講座を開催しています。プログラムの内容は時代に合わせてリニューアルするとともに、提供方法に関しても一方的な講義という形ではなく、双方向的なやりとりや遊びの要素も加えることで、子どもたちが楽しみながら学べるように工夫しています。

### 受賞の言葉

教育は時間とお金がかかり、効果が分かりにくいものです。特に消費者教育は説明も難しいです。そのような活動を理解し評価されたことは、私たちに誇りとやりがいを与えてくれます。今後は賞に恥じないようによりノウハウを駆使し、タイムリーな、対象者に合わせた分かりやすい消費者教育を展開していきたいと思えます。

## 自然体験活動指導者ネットワーク えんりっと

北海道苫小牧市 代表者：福岡 雄司

活動開始年月：2013年1月 スタッフ数：12名  
〒053-0047 北海道苫小牧市泉町1-5-6(いぶり自然学校内)  
TEL.0144-82-7860



森づくりや自然体験活動の指導を通じて、  
子育て中の母親でも子連れで活躍できる社会の実現をめざしています。

これまで自然との接点がなかった親子や障がい児へ、地域の自然を楽しむことを提案する講座や森遊び活動を、子育て中の母親スタッフが自然体験活動指導者の資格を取得し、子連れでも指導に立てる工夫をしながら展開しています。「子を預けて働く」か「育児に専念する」かの選択に悩む母親たちが少なくない今の社会へ、「子連れで社会で活躍する」という新たな選択肢を示し、この選択肢が受け入れられる社会になることを願い活動しています。

### 受賞の言葉

子育てと働くことに悩んでいた仲間が出会い、えんりっとを立ち上げて7年目になります。これまでの活動に共感をいただけたことに、言葉にしがたいほどのうれしさと感動を感じています。ここからまたスタッフ一同気持ちを新たに、未来を強くしていく活動を生み出していく勇気と元気をいただくことができました。



## スミセイ未来賞

### 特定非営利活動法人 食育体験教室・コラボ

長野県長野市 代表者：飯島 美香

活動開始年月：2011年3月 スタッフ数：7名  
〒388-8017 長野県長野市篠ノ井山布施5401-2  
TEL.090-3918-6059(代表飯島)



地域のみなさんの協力を得て、子どもたちに食育を通じて  
「未来を生きる力」を身につける機会を提供しています。

遊休農地を活用した農業体験「キッズふぁーむ」、実店舗での農作物の学びと販売体験「やさいの日」、お弁当づくりのワークショップ「弁当の日」、味噌やだしを学ぶ「和食の日」など、食と農をテーマにした多様な食育活動を行っています。普段の生活ではなかなか経験することのできない農作業や販売、調理やプレゼンといった体験を通じて、参加した子どもたちは自信と積極性、そして生きるために必要な力をしっかりと身につけていきます。

#### 受賞の言葉

自然のなかで生きていく素晴らしさを子どもたちに伝えたくて、お母さんたちに「子育ては楽しい」と感じてほしくて、活動してきました。子どもを育む環境は時代とともに変化し、生き辛さを抱える子や親がいることを実感しています。受賞を機に、私たちの活動を知り応援してくれる方が増え、地域の子育てを楽しく、子どもたちの未来を明るくしていけたらうれしいです。

### NPO法人 翼学園

愛媛県松山市 代表者：大野 まつみ

活動開始年月：1985年4月 スタッフ数：6名 会員：235名  
〒790-0047 愛媛県松山市余戸南3丁目3-39  
TEL.089-971-5706



学校に行けず自死まで考える子どもの心と身体をケアし、  
学校・社会復帰に必要な支援を行って確実に復帰へつなげます。

翼学園は心と教育の専門家集団が運営する学校外通所施設です。長期欠席に陥った子どもの心を回復させ、学校や一般社会に復帰できるまで支援・教育をしています。親や家族のカウンセリングも行うほか、定期的な連絡会で学校との信頼関係を築き、子どもが学校に行ける環境を整えます。子どもに学力・体力・コミュニケーションスキルが身につく、復帰する日が翼学園卒業の時です。これまでに650人以上が、学校や社会に復帰しています。

#### 受賞の言葉

未来賞という栄えある賞をありがとうございます。学校に行けなくなった子どもが自分の未来に絶望し、次々と自死する悲しい現状が、愛媛県でも大変多くなっています。私たちは子どもを死なせたくない一心でこの活動を続けてまいりました。これからも、子どもの未来を希望へとつなげ、子どもの幸福のために頑張りたいと思います。

## 長崎“障がい児・者の性を考える” 教育研究会

長崎県長崎市 代表者：宮原 春美

活動開始年月：2010年11月 スタッフ数：5名  
〒852-8520 長崎県長崎市坂本1-7-1 長崎大学医学部保健学科内  
Mail.spring@nagasaki-u.ac.jp ホームページ <https://www.nagasaki-sexuality.org/>



長年にわたる経験と知見を生かし、  
障がい児が社会に適応していくための性教育を行っています。

障がい児の性に関する教育や支援が切望されているにもかかわらず全国的に見てもそうした活動があまりないのが実情です。私たちは学校や施設の職員向けの基礎講座、保護者と専門職との意見交流会、そして障がい児と保護者向けの性教育講座を定期的で開催し、障がい児が社会に適応していくための環境の整備に努めています。社会的なニーズの高まりが予想されるなか、蓄積したノウハウを普及させていきたいと思ひます。

受賞の  
言葉

思春期を迎えると障がいのあるなしにかかわらず体や心の変化が見られ、セクシュアリティは大切なテーマですが、障がい児に対する教育や支援はまだ十分ではありません。地道にやってきたことが受賞につながり大変うれしく思っています。これをきっかけにさらに周りの方々との交流を深め、活動を続けて行けたらと思ひます。

## 特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン

東京都新宿区 代表者：西郷 泰之

活動開始年月：2009年11月 スタッフ数：本部8名+100地域291名  
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1 B棟2F  
TEL.03-5287-5771



孤立しがちな乳幼児家庭を地域ボランティアが訪問し  
親の心に寄り添う支援を100地域で届けています。

ホームスタートは、研修を受けた地域の子育て経験者による家庭訪問型の子育て支援です。無償ボランティアが乳幼児家庭を訪問し、友人のように家事や育児を一緒にしながら親の話に耳を傾け、共に過ごします。親自身の心の安定や子育て意欲の向上をもたらし、地域につながるキッカケにもなっています。世代を超えた地域の支え合い活動は子育ての孤立を解消し、虐待等の発生を予防する他、子育てしやすいまちづくりにつながっています。

受賞の  
言葉

このたびは表彰いただき、本当にありがとうございます。29都道府県100地域で活動する2,158名のボランティアの皆さんやスタッフ、連携機関の皆さまと共に、受賞の喜びを分かち合いたいと思ひます。子育てがピンチの時に気軽にどこでも手助けが得られるように、住民による訪問支援の輪を広げていきたいと思ひます。



# スミセイ未来賞

## 特定非営利活動法人 ホッピング

和歌山県和歌山市 代表者：貫名 茜

活動開始年月：2011年7月 スタッフ数：17名

〒640-8108 和歌山県和歌山市雑賀町58

TEL.073-425-8789



子育てひろばの運営を核にして、  
母親たちのスキルアップと社会復帰をサポートしています。

未就学児とその保護者のためのコミュニティスペース「ドレミひろば」の運営を中心に、子どもの成長とライフステージに合わせた多様な活動を行っています。母親たちの再就職・起業支援にも力を入れており、ひろばや企業での講師経験を生かして、次のステップに進む母親たちも増えています。今後は企業の「子育てしながら働くこと」への理解促進にも努めるなど、母親と社会との橋渡しに引き続き力を尽くしたいと思います。

### 受賞の言葉

このたびは「子育て支援活動の表彰」の助成対象に選んでいただきまして、まことにありがとうございます。子育てしながらも母親たちが無理なく社会とかわり、社会参画・社会復帰ができる仕組み作り・環境作りを目指し、これからも地域のみなさま、そして同じ思いを共有するスタッフのみなんで活動していきたいと思ひます。

## 一般社団法人 美馬森 Japan

宮城県東松島市 代表者：八丸 由紀子

活動開始年月：2011年7月 スタッフ数：常勤2名 非常勤4名

〒981-0414 宮城県東松島市大塚字三反田22-1

TEL.090-9636-0325



被災地にある“馬”の牧場での体験プログラムを通じて、  
子育て支援と復興支援に貢献しています。

馬とふれあいながら森や牧場での仕事を体験する研修プログラムを実施しています。ホースセラピーには癒しの効果に加えて、大型動物でもある馬をハンドリングするなかでリーダーシップやパートナーシップが培われる効果があります。中学生になったかつての参加者がサポート役として積極的に手伝いに来てくれるなど、子どもたちが将来を担う地域のリーダー候補として着実に成長してくれていることをうれしく感じています。

### 受賞の言葉

受賞の一報を受け大変うれしく思うとともに、これまでいかなる時も活動を支えてくださった関係者や支援者の皆さまに改めて深謝申し上げます。これからも馬たちと森がもつ偉大なる力を借りて、子どもたちの心身が健やかに育まれることと、子どもの好奇心が尊重され主体性の向上につながる取組みを、自分たちらしく続けていきます。



# スミセイ女性研究者奨励賞

## 石井 弓

東京大学 東洋文化研究所

### 研究テーマ

歴史における物語の役割—中国農村からヨーロッパへ『趙氏孤児』のもたらした影響関係



### 内容

本研究は、2000年間にわたりさまざまな形で伝えられてきた中国の歴史物語『趙氏孤児』の、ヨーロッパへの伝播を掘り下げていきます。中国農村調査で得た口頭伝承の内容や中国オペラの台本の収集を基礎として、それを18世紀ヨーロッパへの伝播や改編と比較することで、中国農村に由来するこの物語が、近代萌芽期のヨーロッパの人々にどのような影響を与えたのか、そして物語は近代を生み出す上でどのような役割を担ったのかを考察します。

### 受賞の言葉

二人の子どもを連れて、イギリスのオックスフォード大学で訪問研究を行っています。渡英当初、上の子は4歳、下の子は7ヶ月という困難な状況で、子育てに研究に大変な一年を送ってきました。ようやく状況が落ち着き、研究環境が整った今、今回の受賞に支えられてもう一年間こちらで研究を続けられることをうれしく思います。

## 太田(塚田) 絵里奈

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

### 研究テーマ

前近代アラブ社会における  
文民エリートと家族戦略としての通婚



### 内容

14～16世紀のアラブ地域における文民エリート(官僚)は、家系を通じて職位や資産、行政官としてのノウハウを継承しつつ、人的ネットワークを拡大することで、戦略的に権力基盤を形成していった。官僚名家における女性は、育児を担うのみならず、教育を通じた「次世代エリートの再生産」や一族の資産の保全に大きく寄与していた。各家系の個別事例に即し、家系の拡大と存続において女性が果たした役割を解明したい。

### 受賞の言葉

子育てと研究の両立には想像以上の困難があり、時間的な制約から思うように成果を出せず、焦りから研究の継続自体を迷うこともありました。本研究テーマで扱う「家系における女性の役割」は、自身の育児経験から着想を得ました。このたびの受賞を家族で分かち合い、大きな励みとして今後も研究に邁進してまいりたいと思います。



# スミセイ女性研究者奨励賞

## 川崎 えり

上智大学大学院 文学研究科



### 研究テーマ

De beryllo(『眼鏡について』)から見た  
クザヌス中期・後期思想における〈反対対立の一致〉概念

**内容** 中世末期に生きたドイツ出身の枢機卿であり哲学者であったニコラウス・クザヌス(1401-1464)が著した『眼鏡について』(1457)は、彼の思想の鍵として通底する概念〈反対対立の一致〉を主題とし、その入門書として位置づけられているが、国内外共に十分に研究されてきたとは言い難い。当概念について、中期・後期テキスト解釈からその変遷を辿ることを目的とし、本テキストにおいて主張された「眼鏡を通して神を観ること」の内実を探る。

### 受賞の 言葉

このたびは名誉ある賞を賜りまして、大変光栄でございます。このプロジェクトを知り、応募するにあたって、私のような立場の研究活動を支援してくださる事業があることに励まされ、同じ立場から研究を継続された先輩方の存在を心強く感じました。今回いただいたお力添えを最大限に活かし、いっそう研究に邁進してまいります。

## 反中 亜弓

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科



### 研究テーマ

子どもの感情認知の問題が健康及び行動に与える影響  
ーバイオフィードバックを用いた教育的介入の可能性を探る

**内容** 子どもが自らの感情に気付くことや語ることの困難さ、感情を適切に認知することの困難さを包含しているアレキシサイミア(Sifneos, 1973)に着目し、この傾向が感情コントロールにどの程度影響をきたし、子どもの健康面や行動面の問題につながるのかを考察する。さらに、子どものアレキシサイミア傾向を改善し、感情コントロールを高めるための教育的介入方法としてバイオフィードバックに注目し、その効果を検討する。

### 受賞の 言葉

このたびは、スミセイ女性研究者奨励賞に選んでいただき、誠にありがとうございました。子どもと過ごすなかで、研究の継続を迷うこともありましたが、家族の理解と励ましに支えられ、恩師のご協力もあり、ここまで続けることができました。更に、今回の受賞も励みとし、我が子の成長に寄り添いながらも、研究を進めていこうと思います。

## 土谷 真理子

大阪大学 全学教育推進機構 非常勤講師



### 研究テーマ

### ドイツ語圏近代における自然詩の展開とスイス

**内容** ドイツ語圏近代における自然詩という文学ジャンルの成立・発展に際し、自然大国スイスでの実体験がひとつの重要な契機として寄与したことを明らかにするのが研究目標である。17世紀の風景画登場によって自然が美的観照の対象として見直され、スイスの大自然が脚光を浴びていく。本研究では具体的な自然詩テキスト数篇を多角的に分析し、それらを比較することで、文学的トポスとしてのスイスと自然詩の深化の過程を見ていきたい。

### 受賞の言葉

子を授かり母となった喜びもつかの間、切迫流産で絶対安静の身となり、職も研究員の身分も失って、女性が研究を続けることの厳しさを痛感させられました。子育ての喜びとは裏腹に、研究を諦めるか日々葛藤していました。この受賞は、まさに一筋の光明です。これを機に一層研究に邁進し、その成果を社会へ還元していきます。

## 北條 暁子

京都女子大学大学院 文学研究科



### 研究テーマ

### 出産描写に見る日本古典文学作品の本質 —『紫式部日記』・『古事談』から角田文衛『椒庭秘抄』まで—

**内容** 妊娠・出産はたやすいものではない。古来、日本の社会はどうそれを支えたのか。その様相に迫るべく、后妃や女房などの宮廷の事例を確認する。歴史上の記録や文学作品の精読・検討により得られる知見をもとに先行研究の誤謬を正し、文学作品、さらに日本社会のあり方を明らかにするのが本研究の目的である。歴史上の女性たちへの偏見を一部なりとも払拭し、現代の女性をめぐる諸課題の通史的理解の一端を担う研究となるよう目指す。

### 受賞の言葉

長らく「中高教諭>母>研究に志す者」と三つの顔に優先順位をつけ、右の立場を犠牲にすることが是と信じてきました。その狭い視野を広げた経験が、職場に支えられた次女出産・育児と、有職・育児中の者に門戸を開く新制度での大学院入学です。受賞は、三つの立場が互いを尊重し高め合いなさいとの鼓舞。深く感謝申し上げます。



# スミセイ女性研究者奨励賞

ホク ライ  
北 薔

早稲田大学 トランスナショナルHRM研究所



## 研究テーマ

事業承継者への  
社会的支援ネットワークに関する日中比較研究

## 内容

今日、中国の中小企業は経営者の世代交代に直面しており、事業承継が社会問題化しつつある一方、日本では後継者不足が喫緊の課題である。中国では後継者による「第二次創業」ともいえる事業承継スタイルが相次ぎ確立されている中で、本研究は事業承継を担う後継者個人を取り巻く社会環境に着目し、中国の事業後継者への政策によらない社会的な支援ネットワークの状況を解明したい。

## 受賞の 言葉

このたびはスミセイ女性研究者奨励賞の助成対象に選んでいただき、心よりお礼申し上げます。このような賞をいただけることは、私だけでなく日々育児と研究の両立に奮闘する女性研究者にとって大きな励みになり、大変ありがたいことです。今回の受賞を励みに今後も育児と研究の両立に取り組んでいきたいと思っております。

# 牧 千夏

名古屋大学大学院 文学研究科 博士後期課程(特別研究員)



## 研究テーマ

地域社会の農民文学史  
—宮沢賢治の文学創作・文化実践を観点に—

## 内容

農民文学は、総力戦体制に協力したジャンルとして、近代文学研究で批判されてきた。しかしそれは、農民文学のなかでも、農民でない中央文壇の作家ばかりに関心がよせられたために、国策と結びつきの強い作品に研究が集中したことによる。そこで、本研究では、岩手で農学校教師・農民として活動した宮沢賢治を観点にとることで、農民文学に、地域振興・文化向上を目的とした文化運動という側面があったことを明らかにする。

## 受賞の 言葉

本年度、私は夫とともに現職の任期満了となり、来年度には第二子出産を控えています。研究者としてがけっぶちであった私にとって、このたびの受賞は一筋の光明でした。私の研究はマイナーな文学を扱うため、資料調査に多くの時間と経費を要します。受賞を支えに、研究の堅実さを守りつつ、大いに子育てしたいと思っております。

## 水上 香織

東京大学大学院 人文社会系研究科



### 研究テーマ

### インド系移民の相互扶助的活動と同朋意識

**内容** 1857年反乱の後、インド内での民族主義運動の多くは同一の宗教、言語、地域、カーストを拠り所にする傾向にあったのに対し、インド外で展開された民族主義運動は宗教や言語を超えた全インド的な「インド人意識」を持つ傾向にある点で特徴的であった。インド系移民たちのこうした同朋意識はなぜ生まれたのか、とくに彼らの相互扶助的な活動の展開に注目しながら、移民関係資料や政治運動関係資料を用いて分析する。

### 受賞の言葉

博士課程の学生が研究をしながら育児もするという点について、周囲の理解を得られず苦しんだこともあったので、助成対象に選んでいただけて本当に勇気づけられました。今回の受賞を活力として研究と育児とに邁進していくことで、同じように悩みを抱える女性研究者たちを勇気づけられたらよいなと思っています。

## 吉澤 あすな

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科



### 研究テーマ

### 家庭での日常実践がつくる平和 フィリピン南部におけるムスリムとクリスチャンの事例から

**内容** フィリピン南部では、分離独立や自治を求めるムスリム反政府組織と国軍が衝突を繰り返す一方で、日常生活ではムスリムとクリスチャンが共に暮らしてきた。本研究では、異教徒間の共存がなぜ可能なかを明らかにするため、異宗教間結婚における一夫多妻および子どもの宗教選択に焦点を当てる。妥協困難な差異を内包した家族における日常実践を通して、公式な和平プロセスに対するオルタナティブな視点を提示することを目指す。

### 受賞の言葉

助成対象に選定いただき心より感謝申し上げます。博士課程を中途退学して以降、働きながら研究活動を続けてきましたが、研究に専念するため退職し大学院に戻る決心をしました。主に経済的な面で不安が募っていたところ受賞のご連絡をいただき、今後の研究に見通しを持てるようになりました。本当にありがとうございました。